



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

院長補佐 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

株式会社メディコン

一般市民における洗剤および消毒剤の曝露の通報数の増加

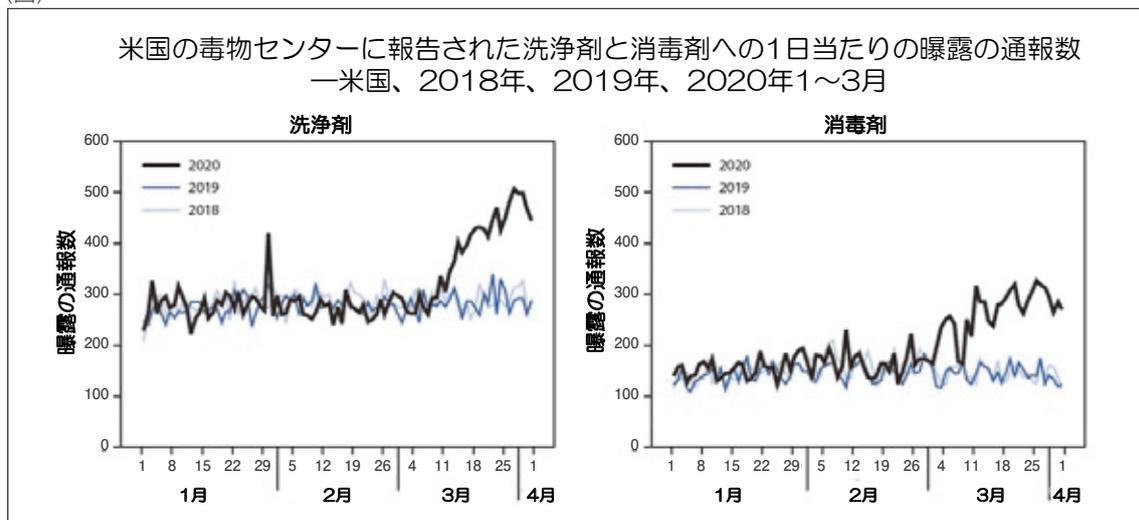
CDCは、SARS-CoV-2 (COVID-19の原因ウイルス) の伝播を防ぐために「手指の高頻度接触表面」を適切に洗浄および消毒することを推奨している。しかし、そのような行為によって、一般市民が洗剤や消毒剤を取り扱う頻度が増え、それに伴って事故が発生している。CDCがどの程度の曝露の通報数の増加がみられているのか報告しており、同時に興味深い事例を提示しているので紹介する(1)。

■洗剤と消毒剤の曝露の通報数の増加

2020年1月から3月までの期間に報告された曝露の通報数を、2018年と2019年の同時期の3か月間と比較した。2020年1～3月に、毒物センターは45,550件の曝露の通報(洗剤28,158件、消毒剤17,392件)を受けた。2019年1～3月は37,822件であり、2018年1～3月では39,122件であったことから、それぞれ、20.4%および16.4%の増加であった。

2020年3月上旬に、洗剤と消毒剤の両方に曝露したということでの毒物センターへの1日当たりの通報数が急激に増加した(図)。その増加は、すべての年齢層で見られたが、5歳以下の小児の曝露の通報は、各年の3か月間の調査期間中の総数の大部分を占めていた(範囲= 39.9%～47.3%)。

(図)



2019年～2020年の通報の増加をさらに分析すると(洗浄剤3,137件、消毒剤4,591件)、洗浄剤では漂白剤が最大の増加(1,949件: 62.1%)を示し、消毒剤では非アルコール性消毒剤(1,684件; 36.7%)と手指消毒剤(1,684件; 36.7%)が最も増加した。

曝露経路については、吸い込みが2019年～2020年では最大の増加を示しており、洗浄剤については35.3%(4,713件から6,379件)、消毒剤については108.8%(569件から1,188件)の増加であった。

■症例1

成人女性が「最近購入したすべての食料品は消費する前に清潔にすべきである」というニュースを聞いた。そのため、彼女はシンクを10%の漂白剤溶液、酢、お湯の混合液で満たし、農産物を浸した。他の食料品を掃除しているとき、台所で「塩素」のような有害な臭いに気づいた。その後、呼吸困難、咳、喘鳴がみられたため、救急車を呼んだ。救急車で救急外来に搬送され、軽度の低酸素血症と呼吸性喘鳴がみられたが、酸素と気管支拡張薬で改善した。胸部X線写真には目立った異常はなく、数時間の観察後に退院した。

■症例2

就学前の年齢の小児が自宅で意識不明で発見され、救急車で救急外来に搬送された。エタノール手指消毒剤の170gボトルが台所のテーブルで開いていることが判明した。家族によれば、未知量を摂取した後に意識が朦朧とし、倒れて頭を打撲したようである。彼女は救急外来に搬送されているときに嘔吐し、反応が鈍くなった。血中アルコール濃度は273 mg/dLに上昇していた(ほとんどの州法では、運転での上限は80 mg/dLである)。MRIなどでは外傷はみられなかった。小児集中治療室に一晩入院し、意識状態が改善したため、48時間後に自宅に退院した。

■まとめ

これらの曝露の通報数の増加は「メディアがCOVID-19パンデミックを報道する数が増えた」「洗浄および消毒製品が不足していると報告された」「いくつかの地域や州が人々に自宅に滞在するように要請した」というタイミングに一致している。

洗浄剤と消毒剤への曝露の通報数は、2020年3月初旬に大幅に増加した。増加した理由は「ラベルに記載されている範囲を超えて使用した」「複数の化学製品を混合した」「保護具を着用しなかった」「換気の悪い場所で使用した」など、不適切な使用によるものであった。不適切な使用を減らし、不要な化学物質への曝露を防ぐために、使用者は常にラベルの記載を読み、それに従い、希釈には室温の水のみを使用し(ラベルに特に明記されていない限り)、化学製品の混合を避け、目と皮膚の保護具を着用すべきである。そして、十分な換気を行い、化学物質を小児の手の届かないところに保管する必要がある。

[文献] (1) Chang A, et al. Cleaning and disinfectant chemical exposures and temporal associations with COVID-19
— National Poison Data System, United States, January 1, 2020–March 31, 2020
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/pdfs/mm6916e1-H.pdf>

こちらも公開しています。

メディコン CDCガイドライン 

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

crbard.jp

BD, the BD Logo are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. © 2020 BD. All rights reserved.

